

令和4・5年度

三重県英語教育改善プラン推進事業

英語授業におけるデジタル教科書 活用実践事例集



三重県教育委員会
研修推進課

はじめに

学習指導要領では、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすることとされています。

令和4年度には、外国語科における学習者用デジタル教科書が全国の小中学校に配付されていますが、これを利用するとさまざまな学習方法が可能となります。また、他の学習者用デジタル教材と組み合わせて使用することにより学習方法の幅が広がります。

県教育委員会では、「英語教育改善プラン推進事業」にて、令和4年度は鈴鹿市立神戸小学校で、令和5年度は四日市市立内部中学校で、英語授業におけるデジタル教科書の活用について研究を行うとともに、その実践を公開する英語授業づくり研修を実施しました。

本冊子では、2年間の授業公開校におけるデジタル教科書の活用実践をもとに、授業助言者による解説や公開授業の指導案を掲載しました。

本実践事例集を授業や地域の研修等で活用いただき、デジタル教科書の使用自体を目的とするのではなく英語の学習目標を達成するために必要な場面で活用し、指導の効率化や言語活動の更なる充実につなげていただけるようお願いしています。

令和6年3月
三重県教育委員会

<目次>

はじめに

- 1 英語授業におけるデジタル教科書活用について・・・・・・・・・・ 1
愛知教育大学 名誉教授 高橋 美由紀
(三重県英語教育改善プラン推進事業に係る公開授業研修助言者)
- 2 活用実践事例
～令和4年度及び令和5年度 英語授業におけるデジタル教科書活用実践～
 - (1) 令和4年度 鈴鹿市立神戸小学校 公開授業・・・・・・・・・・ 9
 - (2) 令和5年度 四日市市立内部中学校 公開授業・・・・・・・・・・ 14

1. デジタル教科書活用の必要性和効果

GIGA スクール構想により、ICT を活用した教育を行うことで、教師・児童生徒の能力を最大限に引き出すことが期待されている。ICT を適切に活用した学習活動は、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善にも資するものであり、各教科等においても指導内容に応じて ICT を適切に活用することとされている。さらに、児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、個に応じた指導の充実を図る際に、ICT や教材・教具の活用を図ること、加えて、障害のある児童生徒等の指導に当たっては、ICT を有効に活用し、指導の効果を高めるようにすることと提示されている（文部科学省 2021a：7-8）。

外国語科（英語）では、他教科に先行して 2024 年度から全ての小学校 5 年生から中学校 3 年生を対象にデジタル教科書が提供される。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を可能とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた外国語科の授業改善においては、デジタル教科書とそのほかの ICT 機器を組み合わせる最大限に活用し、児童生徒の学習の充実を図ることができる。

1-1. 「個別最適な学び」における「指導の個別化」と「学習の個性化」－『令和 3 年答申』より

令和 3 年答申では、「個別最適な学び」について、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるように、「指導の個別化」と「学習の個性化」が示されている（文部科学省 2021b）。

「指導の個別化」は、教師が、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるように、支援の必要な児童生徒により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、児童生徒の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことである。「学習の個性化」は、教師が、児童生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、個々人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童生徒自身が最適な学習となるよう調整することである。

1-2. デジタル教科書の効果的なあり方－『令和 4 年度 実証研究事業』より

令和 6 年度からのデジタル教科書の本格導入に向けた調査研究が、文部科学省からの委託業務として実施され、デジタル教科書の効果的な活用のあり方や教科別の活用例が示された（富士通総研 2023）。『令和 4 年度学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する 実証研究事業（報告書）』では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を可能とするために、それぞれの視点から ①デジタル教科書の効果的な活用のポイント、②デジタル教科書の機能と他の ICT 機器等を一体的に使用することにより可能となる共有方法等について示されている（図 1）。

外国語科（英語）のデジタル教科書の効果的な活用のポイントとして、「外国語ではデジタル教科書の音声読み上げ機能などにより、児童生徒一人一人が自分のペースや方法で、語彙や表現などを確認したり学習したりすることで、自信を持って自分の考えや気持ちを伝え合う活動に取り組むことができる。また、協働的な学びを行う中で、読んだり聞いたりした内容について、考えたり感じたりしたことをデジタル教科書に書き込むなどして思考を整理し、考えを構築して意見交流を行うことで、多面的な考察が可能になるとともに、適切に話したり書いたりして表現する力を育成できる。」ことが示されている。そして、デジタル教科書の機能を活用した例として、「個別最適な学び」では、①音声読み上げ機能（自分にあったスピードに変えて、繰り返し音声を確認することができる。）→英語の表現等の確認・練習、②書き込み機能（色を変えて書き込んだ他者の意見を踏まえて、改めて自分の意見を整理することで、考えを深めることができる。）→自分の考えをまとめる活動が提案されている。一方、「協働的な学び」では、拡大・書き込み機能（デジタル教科書の写真やイラストを活用して、考えや気持ちを伝え合うことができる。）→ペアやグループでの学習活動に活用できることが提案されている（富士通総研 2023：4）。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を可能とするデジタル教科書の効果的な活用のあり方

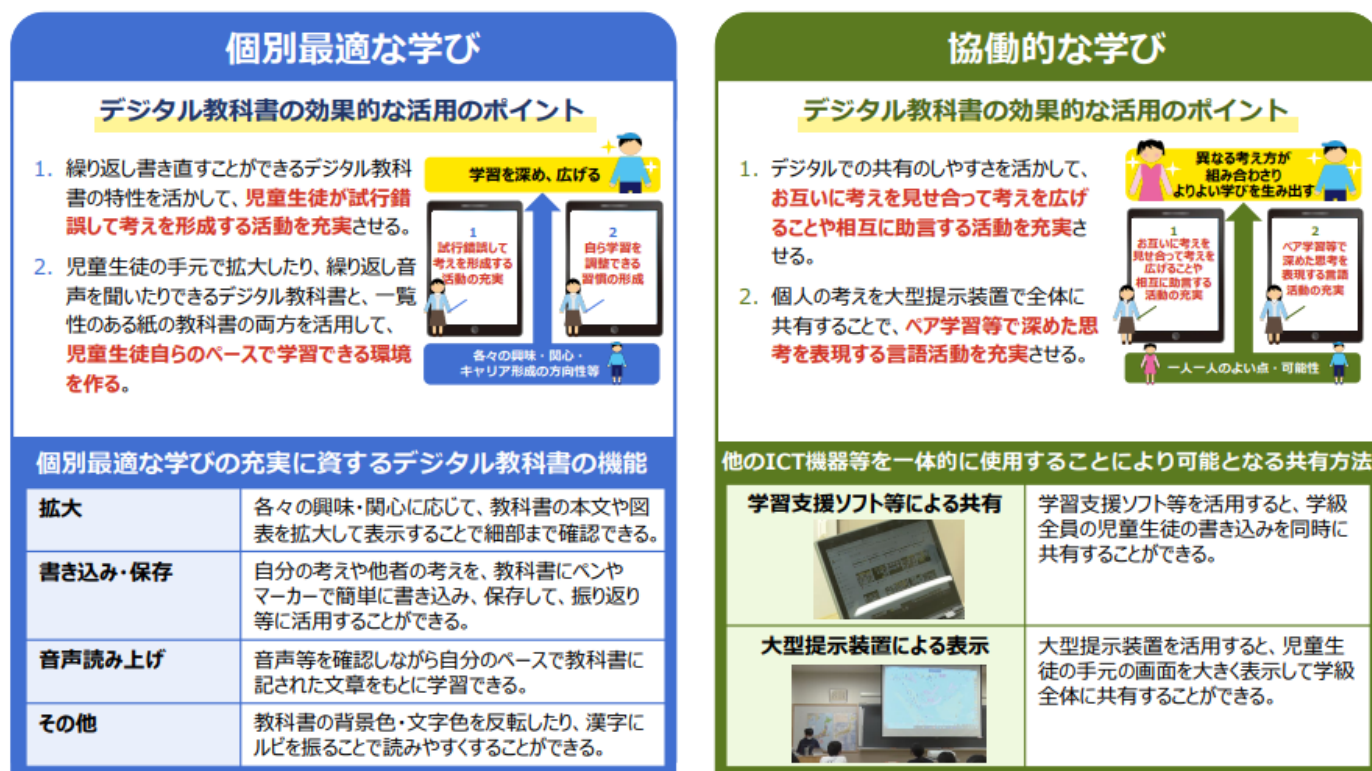


図1：デジタル教科書の効果的な活用のあり方（富士通総研 2023：3）より転載

2. デジタル教科書活用の効果的な活用方法について

デジタル教科書等の教材は、児童生徒の資質・能力を育成するために「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善にも資するものとして最大限に活用できる（文部科学省 2022：8-9）。ここでは、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」として、デジタル教科書の効果的な活用方法について、小学校・中学校の外国語科の授業事例から具体的に述べる。

小学校：6年生 授業者：鈴鹿市立神戸小学校 岡井崇教諭

デジタル教科書 単元：Here We Go! 6（光村図書）Unit 4 My Summer Vacation, Unit 5 He is famous. She is great., Unit 6 This is my town., Unit 7 My Best Memory

中学校：3年生 授業者：四日市市立内部中学校 小林雄太教諭

デジタル教科書 単元：Here We Go! English Course3（光村図書）Unit 3 Lessons From Hiroshima, Unit 4 AI Technology and Language, Unit 5 Plastic Waste, Unit7 Tina's Speech

2-1. 個別最適な学び－音声読み上げ機能/動画・アニメーション機能の活用方法

デジタル教科書の「音声読み上げ機能」を活用すれば、児童生徒は自分に合った速度で語彙や表現の音声を繰り返し聞いて、確認したり学習したりすることで理解が進む。そして、英語独特のリズムやイントネーション、語と語の連結による音の変化等を何度も聞いて、その音声を真似、発話につなげることができる。また、「動画・アニメーション機能」では、コミュニケーションを行う場面・状況を視聴できる。コミュニケーションの自然な発話、英語の表現を使う場面を想像し、児童生徒一人一人が理解できるまで繰り返し視聴することで、より適切な表現を身に付けることができる。さらに、登場人物の発話部分を児童生徒自身に置き換えて練習すれば、実際のコミュニケーション場面で使うことができるようになる。

2-1-1. 小学校外国語科での活用

Unit 4 My Summer Vacation では、はじめに、児童がコミュニケーション場面を理解して言語活動ができるように、教師は指導者用デジタル教科書の「Story」を電子黒板に提示した。児童は全体で動画・アニメーションを視聴した。次に、学習者用デジタル教科書の動画・アニメーション機能を活用するために、教師が Lily, Kazu, Shota の3人の登場人物の絵を黒板に貼り、その隣に Lily, Kazu, Shota 各々がデジタル教科書で話し始める時間として、「Lily 20」, 「kazu 54」, 「Shota 2:00」を黒板に書いた(図2)。黒板に貼られた登場人物の絵カードとその時間を手掛かりにして、音声読み上げ機能/動画・アニメーション機能を活用し、児童が自分のペースに合わせて視聴できた。教師が登場人物の時間を提示したことで、児童はアニメーションの最初の発表者の Lily から視聴するのではなく、児童一人一人が聞きたい登場人物から視聴していた。児童は音声読み上げ機能の利点である英語の表現等の確認・練習だけでなく、登場人物の選択をすることでより主体的に取り組むことができた。

児童は、音声を聞きながら本文を黙読したり、少し遅れて音読(シャドウイング)したりすることで、正確な音声に何回も触れた。また、自分のペースで音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞いたりして、音のつながり等に留意しながら練習した。さらに、児童が各々の登場人物になりきって、実際にコミュニケーションの場面を設定して発話練習することもできたので、「できた!」という達成感と自信につながった。

動画を視聴する時に英語字幕を活用して、児童は「音声を聞きながら文字を指で追い、文字を読む学習」にもつなげた。この活動では、小学校から中学校への接続課題である「文字学習」について、デジタル教科書を使用することで、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読む活動ができ、読むことの目標である「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」(文部科学省 2018:78) 指導ができる。なお、字幕に関しては、「音声で十分に慣れ親しむ」ことが重要であり、児童が自由に見るのではなく、数回聞いて慣れ親しんだ後に字幕を見る等、目的に応じたルール作りが必要である。

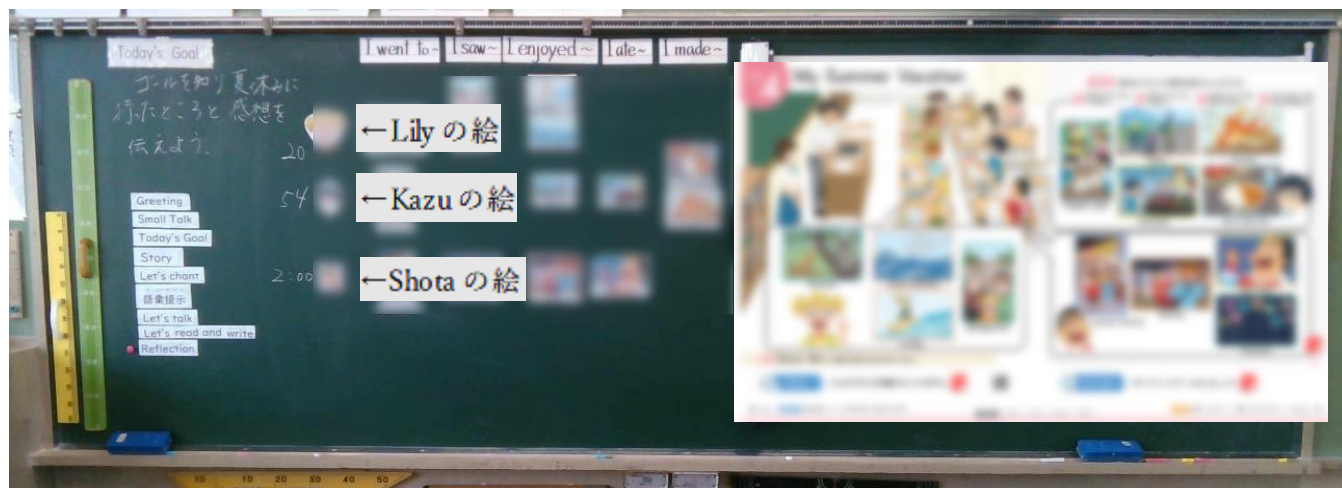


図2：指導者用デジタル教科書と登場人物の絵と彼らの発話時間(2022年9月5日 筆者撮影)

2-1-2. 中学校外国語科での活用

生徒は、学習者用デジタル教科書で「動画・アニメーション機能」と「音声読み上げ機能」を用いた学習を行った(図3)。学習者用デジタル教科書を活用して、西村さんの話を聞いた後、ワークシートに記入したことを意識しながら、生徒自身のペースで読む練習を行なった。コミュニケーション場面と英文、音声が一致することで、生徒の語彙や表現の理解が進み、より適切な表現を身に付けることができた。また、生徒が音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞いたりすることにより、音のつながりやイントネーションなどに留意しながら練習できた。十分練習できたと思うペアは、お互いの音読を録画し、その後自分自身の音読を再生した。殆どの生徒が1度の録画で満足できず、何度も録画をし直していた。

学習者用デジタル教科書は、「読むことに自信がない」生徒や、「もっとうまく読みたい」生徒が「西村さん

になりきって音読し、録画する」ことに向けて、自分のペースで音声を確認できるとともに、既習の表現の中で使いたい表現を引き出す際の音声での確認もできた。

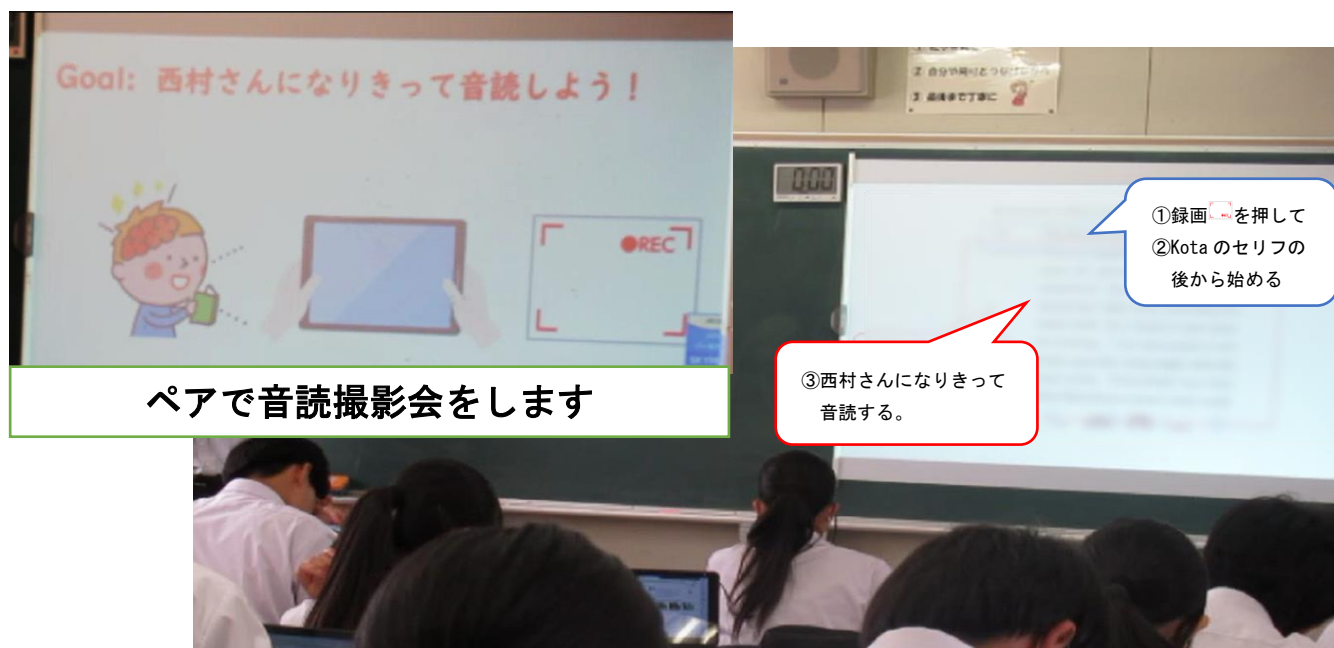


図3：デジタル教科書を活用した音読指導（2023年6月27日 筆者撮影）

2-2. 協働的な学びー「音声読み上げ機能」と「書き込み機能」、他のICTの活用法

2-2-1. 小学校外国語科での活用

協働的な学びにおけるデジタル教科書の活用として、Show & Tell（視覚教材を示しながら、話す）で発表し、録画する活動を実施した（図4）。はじめに、全体で、デジタル教科書の Unit 7 My Best Memory 「Let's listen and read」を視聴して、登場人物 Nick のスピーチを単元ゴールのモデル文として、児童に ①スピーチの良さ、②より相手に理解してもらえるように伝えるためにはどうすれば良いのかを考えさせた。次に、教師が自分の Best Memory についてのスピーチを行い、①と②の観点について児童に尋ねた。児童からの意見は、①「早さ（すらすら）、発音、感想を加える、聞き取りやすい」、②「感情を入れる、声の抑揚・強弱、詳しく話す、ジェスチャー、絵や写真を指で指す」等であった。その後、児童は、あらかじめ準備してきたスピーチ原稿とタブレットの絵や写真を活用して練習を行い、ペア活動として、「相手によりよく伝えるために」各々の発表を録画した。この発表では、児童は自分の録画を再生して振り返り、満足できるまで何度も録画し直していた。



図4：ペアで Show & Tell の発表と録画をする活動。（2022年12月5日 筆者撮影）

デジタル教科書は、発表準備のために音声を聞いて練習できる他、「書き込み機能」を活用して、児童が気付いたことや自分に取り入れたい表現等をメモすることもできる。さらに、既習の単元に戻って活用できる表現や言葉を見つけ出すことができる。また、「Let's listen and read」をコミュニケーション活動とする場合、教師が Nick に向かって、「What's your best memory?」と尋ね、Nick の発話「My best memory is our music festival. We played the recorder. We sang a lot of songs together, too. It was fun.」を児童に聞かせ、児童と一緒にこの発表に「Oh, great.」「Wonderful」「Nice」「me too!」等のリアクションを入れる。この活動を通して、児童に友だちの発表を聞く時に、「どんなリアクションをどのように入れたらいいか？」を考えさせることができる。また、児童が自分の考えてきた発表内容について、登場人物 Nick と児童自身の映像と比較して、児童がクリティカルな視点で自分の映像を自己評価できる。

2-2-2. 中学校外国語科での活用

「音声読み上げ機能」と「書き込み機能」を活用することで、領域を統合した活動をより実施しやすくなる。デジタル教科書を視聴して十分な音読活動を行った後、教科書本文に関連した挿絵を見ながら、本文を見ずに英語を話す活動を行うリテリングの練習を行った。その後、例えば、Unit7 Tina's Speech の授業では、①ペア学習として、一人が Tina の気持ちになって本文を音読し、もう一人がその音読に対してコメントする、②グループ学習として「Tina が一番伝えなかったこと」の課題について、「Tina の気持ち」を伝えていられる部分に、ハイライトを入れたり線を引いたりしながら個別に音声を聞きいた後、グループで話し合った（図5）。音読では、発音・アクセントの正確さ、間の取り方等を考えながら相手に伝えるために読むという活動が効果的である（文部科学省 2018b: 58）。一方、書き込みでは、まとまりのある文章から、どの情報がその中で最も重要であるかを判断する（文部科学省 2018b: 21）活動として効果的であった。

さらに、Tina のスピーチを受けて、「もし Kota なら Tina に何を伝えたいか」をグループで考える活動を行った。Kota の気持ちになって、Tina に伝えたいことを「リスト」に挙げる活動として、はじめに、「書き込み機能」を使って、生徒は自分で使いたい表現をデジタル教科書にメモ書きで残し、教科書だけでなくメモも参考にして、使いたい表現をどんどん引き出した。そして、必要であれば音声も聞いてこのサポートとして活用した。このように、デジタル教科書から抜き出すことで、生徒は学習した表現を活用して Tina に伝えることができるので、主体的に言語活動に取り組むことができた。次に、グループで話し合い、他者の意見について色を変えて書き込むことで、自分の意見との違いを可視化した。このような協働的な学びを行う中で、生徒は書き込んだ自分の意見や他者の意見を踏まえて、改めて自分の意見を整理することができ、自分の考えを深めることができた。また、自分の意見を友だちに伝える時に、自信が持てない語彙や表現をデジタル教科書で再確認した。生徒が適切な表現を確認するために何度も教科書に立ち戻り、教科書内の表現を活用する工夫をしたりすることで、教科書に使われている語彙や表現の定着につながった。

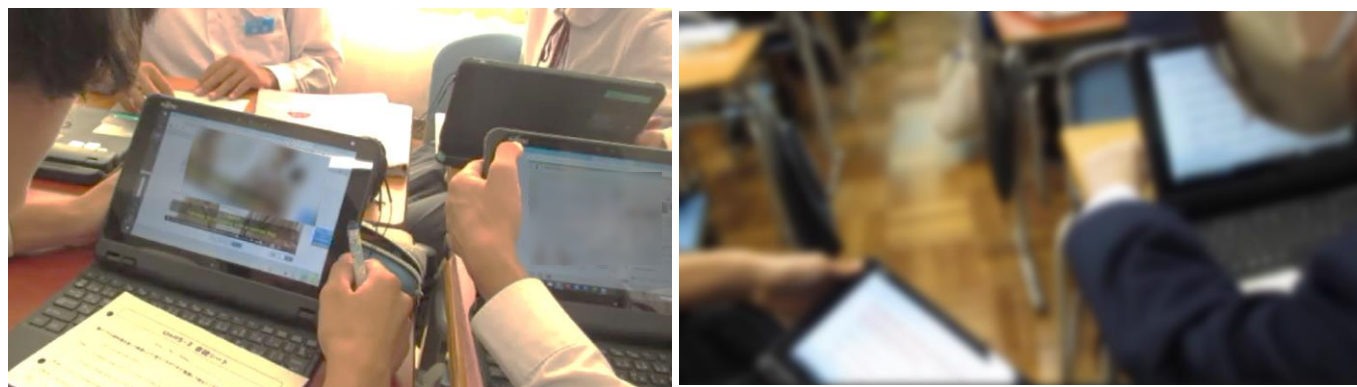


図5：デジタル教科書を活用した協働的な学び（グループ・ペア学習）。(2023年10月26日・12月19日)

3. 課題と展望

研究授業では、デジタル教科書を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを往還しながら「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図ることができた。また、デジタル教科書をそのまま活用するだけでなく、教師が作成した絵カードやワークシート等の教材をプラスすることで児童生徒の学習に対するモチベーションが高まった。そして、児童生徒の「知識・技能」の向上のみならず「思考・判断・表現」の育成にも効果的に活用することができた。

小学校から中学校への連携については、「音声読み上げ機能/動画・アニメーション機能の活用法」では、小学校・中学校ともに同じ活用方法で知識・技能の育成に効果的であった。小学校では教師主導でデジタル教科書の音声を聞いて、その音声を真似て児童の発話につなげた。一方、中学校では、生徒自身で苦手なところや理解できないところを認識し、着実に知識及び技能等を習得することができた。そして、デジタル教科書の登場人物とやり取り等の言語活動では、児童生徒が即興で話すことの前段階として活用することができた。

今後の課題として、授業以外で「個別最適な学び」として、デジタル教科書を視聴して復習や予習をし、授業では「協働的な学び」として、友だちとコミュニケーションを図り、他者に伝え合う活動等を行うことで、主体的な言語活動に取り組むこと等、「学習者用デジタル教科書を授業と授業以外での活用するためのバランス」や「多様化した児童生徒へのデジタル教科書での活用と評価」等が挙げられる。

謝 辞

本稿の執筆にあたり、狩俣厚子先生（三重県教育委員会）、岡井崇先生（鈴鹿市立神戸小学校）、小林雄太先生（四日市市内部中学校）をはじめとし、三重県教育委員会、鈴鹿市教育委員会、四日市市教育委員会及び、下記の参考文献に記している教育委員会及び先生方にご協力頂きましたこと感謝いたします。

引用・参考文献

- 中日新聞（2023）「英語のデジタル教科書 試験配布」 2023年2月16日朝刊
- （株）富士通総研（2023）『令和4年度 学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業報告書（概要版）』
- （株）内田洋行教育総合研究所（2023）『学習者用デジタル教科書の活用による指導力向上ガイドブック 令和4年度 学習者用デジタル教科書を活用した教師の指導力向上事業』
- 狩俣厚子・青山久徳・伊藤佳代子（2022）「小学校外国語科 6年生指導案検討資料」三重県教育委員会・鈴鹿市教育委員会
- 狩俣厚子・中村優子（2023）「中学校外国語科 3年生指導案検討資料」三重県教育委員会・四日市市教育委員会
- 小林雄太（2023）「中学校外国語科 3年生指導案」三重県四日市市立内部中学校
- 文部科学省（2018a）『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』開隆堂出版
- 文部科学省（2018b）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版
- 文部科学省（2021a）「学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料（令和3年3月版）（令和3年4月28日第123回教育課程部会資料5-1）」
- 文部科学省（2021b）『『令和3年答申』「令和3年度 学習者用デジタル教科書普及促進事業」』
- 文部科学省（2021c）『令和3年度 はじめてのデジタル教科書～中学校外国語編』
- 文部科学省（2022）『学習者用 デジタル教科書 実践事例集 2022年3月』
- 岡井崇（2022）「小学校外国語科 6年生指導案」三重県鈴鹿市立神戸小学校
- 岡井崇・高橋美由紀（2023）「学習者用デジタル教科書を活用した Receptive Activities 学習効果を高めるための授業づくり」第23回小学校英語教育学会発表要綱集 小学校英語教育学会 2023年7月22日 京都教育大学

- 高橋美由紀（2022）「言語活動を充実させた授業づくりーFocus on Formを活用して」三重県鈴鹿市教育委員会
会夏期研修会中学校外国語（英語）科 研修資料 2022年8月8日 鈴鹿市役所
- Takahashi Miyuki（2022）「Study of Japanese Elementary and Junior High School Textbooks for Foreign
Language Education -From the Perspective of Global Children's International Issues」The World
Association of Lesson Studies (WALS) Proceeding, WALS 2022, Malaysia Universiti, Kebengsaan,
2022, 9, 21, Malaysia
- 高橋美由紀（2022）「主体的な言語活動におけるリスニング指導と評価ーデジタル教科書を活用して」三重県
教育委員会 令和4年度 5領域別研修（第3回）資料 2022年10月13日 オンライン
- 高橋美由紀（2022）「デジタル教科書を活用した指導と評価ー子どもたちが主体的に伝え合うことができる力
の育成を目指してー」三重県教育委員会 小中学校英語研修資料 2022年12月5日 三重県鈴鹿市立
神戸小学校
- 高橋美由紀（2022）「英語デジタル教科書の導入と活用」第99回外国語教育メディア学会中部支部大会シン
ポジウム 発表資料 2022年12月17日 岐阜女子短期大学
- 高橋美由紀（2022）「小中接続から考える英語教育ー学習者用デジタル教科書を活用ー」滋賀県中学校教育研
究会英語部会 冬季英語教員研修会 講演資料 2022年12月26日 滋賀県総合教育センター
- 高橋美由紀（2023）「ALT と TT で指導するためにーデジタル教科書を活用した ALT との TTー」三重県紀
中学校地区別（紀宝町・御浜町・熊野市）研修会 資料 2023年2月14日 紀宝町役場
- 高橋美由紀（2023）「ミライノマナビコラムーそこが知りたい小学校英語 第20回 「学習者用デジタル教
科書」の導入事例（小学校外国語教育6年生）」ミライノマナビ
- 高橋美由紀（2023）「ミライノマナビコラムーそこが知りたい小学校英語 第21回 「デジタル教科書を活
用した児童の「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る授業づくり」ミライノマナビ
- 高橋美由紀・米村大輔・森直樹・中川右也・市川裕理・柴田里実・西尾由里（2023）「タブレット PC を使用
した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの小・中学校の英語教育方法論」第52回中部地区英語教
育学会岐阜大会 問題別討論会発表資料 2023年6月25日 岐阜大学
- 高橋美由紀・岡井崇（2023）「「主体的・対話的で深い学び」を育成する指導と評価-ARCS モデルの視点から
教師作成教材・学習者用デジタル教科書を活用した授業」第23回小学校英語教育学会発表要綱集 小学
校英語教育学会 2023年7月22日 京都教育大学
- 高橋美由紀・柳善和（2023）「学習者用デジタル教科書の効果ー音声指導から読むこと・書くことの指導へ」
外国語教育メディア学会全国大会 発表資料 2023年8月9日 早稲田大学
- Takahashi Miyuki（2023）「Study on Class Practice and Improvement of English Education to Encourage
“Proactive, Interactive, and Authentic Learning”」The World Association of Lesson Studies (WALS)
Proceeding, WALS 2023, Windeshsim University, Zwolle, The Netherlands, 2023,11,29
- 高橋美由紀（2023）「コミュニケーション能力を育てる外国語科の授業づくりー小中連携を視野に入れてー」
令和5年度磐周教育研究集会 講演資料 2023年7月28日 磐周教育研究所
- 高橋美由紀（2023）「児童・生徒の英語パフォーマンス力を育成する授業づくり」三重県小学校・中学校教
員研修会 資料 2023年8月 鈴鹿市役所
- 高橋美由紀（2023）「目的・場面・状況が明確な言語活動の設定ーデジタル教科書を活用してー」三重県教
育委員会 小中学校英語研修資料 2022年12月5日 三重県四日市市立内部中学校
- 高橋美由紀（2024）「小学校外国語（英語）教育における学習者用デジタル教科書を活用した授業づくりー
productive Activities につながる効果的な Receptive Activitiesー」愛知教育大学 研究報告第73輯
- 高橋美由紀・米村大輔・森直樹・中川右也（2024）「タブレット端末を使用した「主体的・対話的で深い学
び」の視点からの英語教育方法論 ー中学校・高等学校での活用ー」鹿児島県立短期大学 地域研究所
研究年報 第55号 pp.13-25

2023年(令和5年)2月16日(木曜日)

中

県

県

学

英語のデジタル教科書 試験配布

効果的活用 探る現場

小中学生がパソコンやタブレット端末で使うデジタル教科書。中でも英語は、文部科学省が2024年度に小学5年～中学3年で先行導入する方針を示し、22年度は全国ほぼすべての公立小中学校に試験的に配布した。実際に使い始めている小中学校を取材した。(山本克也)



英語を確認しながらデジタル教科書の例文を読む児童ら＝三重県鈴鹿市の神戸小で

この前の授業では、教科書の例文を参考に、運動会や修学旅行など、小学生生活の思い出を英語で作文した。その作文を一手し、動画に収める際、どうすればより伝わりやすくなるのかこの授業では追究する。児童は自分たちが撮

った。児童らは一人一台のデジタル端末を開いて教科書画面上のボタンを押し、例文を指で追いつつ何度も繰り返し読んで発音を確認。「聞き取りやすい声の大きさと速さだった」「最後に自分の気持ちをきちんと添えていた」と感想を伝えた。

児童らは一人一台のデジタル端末を開いて教科書画面上のボタンを押し、例文を指で追いつつ何度も繰り返し読んで発音を確認。「聞き取りやすい声の大きさと速さだった」「最後に自分の気持ちをきちんと添えていた」と感想を伝えた。

発音確認 何度も／通信環境改善を

意欲を練習する時間になると、大半の生徒は端末を手に持ち、デジタル教科書を読み上げ始めた。紙の教科書で何も隠されていない例文を確認する姿もある。一方、デジタルなら単語を隠す分量は自在。練習を重ねて、隠す分量を増やしていく生徒も。どのくらいの量を隠して練習するかは、各自に委ねられている。

嶋田真実さん(13)は、授業でも自学学習でも主にデジタル教科書を使う。「一度度めつくりをする、単語の発音を何度も確認できるのがいい。でも、印を付けたら、メモを取ったりするのは紙の教科書」。

高橋陽朗教諭(34)はデジタル教科書の利点を「得意な生徒も苦手な生徒も、それぞれのレベルに合わせて学習できる」と話す。ただ、インターネットに接続して使うため「生徒が一言にべーじを開くところ、紙に比べてどうしても時間がかかる」と、教科書のデータ量や通信環境を改善する重要性を指摘した。

デジタル教科書の活用は中学でも。昨年十二月下旬の愛知県春日井市の高森台中。現在進行形を学ぶ一年生の授業で、電子黒板に映っていたのはデジタル教科書だ。例文のころ、一部の単語は隠されていて見えない。

「メモは紙が便利」

デジタル教科書の活用は中学でも。昨年十二月下旬の愛知県春日井市の高森台中。現在進行形を学ぶ一年生の授業で、電子黒板に映っていたのはデジタル教科書だ。例文のころ、一部の単語は隠されていて見えない。

高橋陽朗教諭(34)はデジタル教科書の利点を「得意な生徒も苦手な生徒も、それぞれのレベルに合わせて学習できる」と話す。ただ、インターネットに接続して使うため「生徒が一言にべーじを開くところ、紙に比べてどうしても時間がかかる」と、教科書のデータ量や通信環境を改善する重要性を指摘した。

高橋陽朗教諭(34)はデジタル教科書の利点を「得意な生徒も苦手な生徒も、それぞれのレベルに合わせて学習できる」と話す。ただ、インターネットに接続して使うため「生徒が一言にべーじを開くところ、紙に比べてどうしても時間がかかる」と、教科書のデータ量や通信環境を改善する重要性を指摘した。

文字と音を結び付けた理解 重要

デジタル教科書が英語で先行導入された決め手は、音声の再生が可能で、発音の確認に役立つ点だ。愛知教育大の高橋美由紀名誉教授(英語教育)は「英語は、いかに文字と音を結び付けながら理解できるかが重要な教科」と有用性を強調する。併せて使えばさらに児童生徒らは学

びやすくなるが、「大切なのは、子どもたちの英語力をどう高めていくのか。教員はデジタル教科書の特長を授業のどんな場面でも発揮できるかを見極めろ」と話す。

当面、教科書はデジタルと紙を併用する。小中学校の教科書は、無償配布すると定められており、両方を配るにはこれまでに以上の予算が必要だ。また、デジタルは「紙の教科書

と同じ内容」とされているため、ネーティブスピーカーによる音声や動画、アニメーションなど、デジタルならではの機能の位置付けがあまりないまま。現在は付属教材として扱われており、高橋さんは「本格導入を踏まえ、デジタルならではの機能を含め、教科書のあり方を分りやすく定義してほしい」と注文する。

高橋美由紀
愛教大名誉教授

活用実践事例

令和4年度

鈴鹿市立神戸小学校
公開授業

6 学年 1 組 外国語科学習指導案

令和 4 年 12 月 5 日 (月) 5 限目

授業者 岡井 崇

I 単元 Here We Go! 6 Unit 7 My Best Memory

II 単元目標

- ・ 過去を表す表現を理解し、行事やしたことを伝えることができる。(知識及び技能)
- ・ 5 年生に神戸小学校での思い出を伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、行事やしたこと、感想を発表することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 5 年生に神戸小学校での思い出を伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、行事やしたこと、感想を発表しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

III 言語材料

○What's your best memory? My best memory is ~.

We went to 【ate / saw / enjoyed / played / sang】 ~.

○人やものを説明する (best, wonderful), 学校行事 (entrance ceremony, graduation, swimming, meet, trip, volunteer), 活動 (sang), 身の回りにあるもの (eraser, ruler), 自然 (flower), art, field, lot, memory, our

IV 該当する学習指導要領における領域別目標

話すこと (やり取り)	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
話すこと (発表)	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

V 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 学校行事の語彙, My best memory is....や過去を表す表現について理解している。 ・ 思い出の学校行事について My best memory is....や過去を表す表現を用いて、行事やしたことを伝える技能を身につけている。	・ 5 年生に神戸小学校での思い出を伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、行事やしたこと、感想を発表している。 ・ 5 年生に神戸小学校での思い出を伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、行事やしたこと、感想を書いている。	・ 5 年生に神戸小学校での思い出を伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、行事やしたこと、感想を発表しようとしている。 ・ 5 年生に神戸小学校での思い出を伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、行事やしたこと、感想を書こうとしている。

VI 指導上の考察

1 単元について

本単元では、思い出の学校行事を紹介する。具体的には、思い出の行事、その行事でしたこと、その感想を紹介する。これは自分たちのこれまでの学校生活を振り返る機会となる。その中で、共に過ごした仲間の大切さや先生との思い出を感じられるようにしていきたい。

2 学期ももうすぐ終わる時期で、卒業まで残り少なくなり、小学校生活を大切に感じられる時期でもある。また、卒業生を送る会では、5 年生にバトンを繋ぐ場面もある。そこで、本単元の目的を「5 年生に神戸小学校での思い出を伝えよう」と設定する。思い出を伝えることで神戸小学校の良さを伝えることにもなる。

思い出の学校行事について紹介する際には、My best memory is ～. We went to 【ate / saw / enjoyed / played / sang】 ～. などの英語表現を用いる。My best memory is を使った表現が初出であるが、多くの語彙や英語表現は、これまで音声で十分に慣れ親しんだものであるため、児童は自信を持って思い出の学校行事について紹介することにつながる。学校行事については、難しい表現もあるが、伝える相手を意識させたうえで、児童の本当に言いたいことを大切にしたい指導を行っていく。

紹介する文章は P.86 Let's listen and read. を参考に構成する。1 文目で思い出の学校行事を伝える。2 文目、3 文目の We played ～. で、1 文目で紹介した思い出の学校行事でしたことを伝えている。4 文目では、感想を伝えている。以上のような構成になっている。前述のように、

1 文目が初出の表現となっている。2 から 4 文目は過去形を用いており、Unit 5 での既習表現となっている。新出語彙の多くは、入学式や修学旅行といった学校行事である。コロナ禍での 3 年間で実施していない行事も語彙として取り上げられている。休み時間や給食といった日々の学校生活も含めて思い出の学校行事を発表していく。

My best memory is our music festival.
We played the recorder.
We sang a lot of songs together, too.
It was fun.

2 児童について

※掲載を省略しています。

3 指導について

思い出の学校行事を紹介することを本単元のゴールと設定する。そのため、初めに、授業者が思い出の学校行事を紹介する。本単元の目標（大きい目標）と毎時の目標（小さい目標）を示したものを用意し、毎時、児童に提示する。そうすることで、児童自身が、思い出の学校行事を紹介するという大きい目標に向かって、見通しをもって毎時の授業に臨むことができると考える。

思い出の学校行事を紹介する活動では、端末によるプレゼンテーションソフトを使って発表させる。プレゼンテーションは、写真を数枚使って作らせる。発表の基になる文は、少しずつ書き溜めさせていく。しかし、発表では原稿を読むのではなく、アイコンタクトを使って、聞き手の反応によって適切な言葉をその場で選び発表をさせる。そのため、児童が作成するプレゼンテーション資料は、聞き手への情報となるとともに、話すメモとしての役割も果たす。

第 1 時では、授業者の思い出の学校行事を聞いて学習の見通しをもつ。更に Story を視聴して、初めの活動と合わせて学習のゴールをイメージさせる。その上で、学校行事の語彙にゲームを通して慣れ親しませる。

第 2 時では、P.82 Let's watch. を視聴することで単元のゴールを改めて意識させる。そして、この会話を Small Talk（6 年生の Small Talk は児童同士）として、先生役とニック役をモデルとして行い、アニメと同じように話す練習をする。次に、P.82 Let's listen. での表現も活用した言語活動として、思い出の学校行事の英語表現に慣れ親しませる。その上で思い出の行事につい

てペアで話をさせる。

第3時では、P.84 Let's watch.を視聴し、話の内容を捉える。続けて、P.84 Let's listen.を聞き、思い出の行事とその内容を聞き取る。P.82とP.84のLet's watch.をモデルとして視聴しながら、Small Talkを言語活動として行い、次に、Let's listen.の表現も使って、児童自身のことについて、思い出の行事としたことについてペアで話をさせる。

第4時では、Small Talkで言語活動を行った後、Let's listen and read.を聞かせ、発表の形式を確認させる。その後、端末で発表資料の作成を行い、Small Talkの形式で、ペアで発表の練習をさせる。P.84 Let's listen.では、① 将太=My best memory を発表する児童、② ニック=それを聞いて、友達の発表内容について、感想や質問をいう児童のモデルを活用して、同じ内容で児童がペアで練習する。その後、Let's listen and read.で児童が作成した資料を使って、① My best memory を発表する児童、② 発表を聞いている児童で発表の練習を行う。

第5時では、ニックのスピーチを聞いて、そのよさを考える。その上で、自身の発表内容を振り返り、共に過ごした仲間の大切さを伝えるにはどうしたらよいか考える。児童の考えを基に授業者がモデルを提示し、児童自身の内容を改善させる。ペアになり端末で自分のスピーチを録画し、互いに見て、よいところや、改善点を伝え合わせ、次時の発表へとつなげていく。

第6時では、思い出の学校行事を発表する。修学旅行を終えたばかりの子どもたちであるため、思い出の学校行事が、修学旅行ばかりになってしまうことが予想される。そのため、発表する学校行事を2～3つとする。

4 学習者用デジタル教科書の活用について

端末によるプレゼンテーション資料作成に加えて、学習者用デジタル教科書も用いる。聞きたいところを聞いたり、反復練習をしたり、語彙の確認をしたりし、個々の課題解決につながるように使っていく。ただし、児童が自分の課題にあわせて、どのツールを使うことが適切かも考えさせ、自身で選択させることが肝要である。

「学習者用デジタル教科書」の活用法として、文部科学省が示している3つの柱の内(1)知識・技能については、新出語彙や表現について繰り返して個人練習をする、(2)思考・判断・表現については、StoryやLet's watch., Let's listen.等を視聴しながら、コミュニケーションの場面・状況での発話内容を理解し、その場面で使われている表現を使って、自分の伝えたいことを表現できるようにする、(3)学びに向かう力、人間性等では、デジタル教科書の世界の友達のモデルを視聴して、気が付いたことや児童自身が授業で各々に録画したものを、その前の授業で録画したものと比較して、向上できたこと等をクリティカルな視点で各児童が認識できることを期待する。

・Story

大まかな話の流れを捉え、ピクチャーカードを並べ替える。

視聴したいところを、自分で選んで視聴する。

・Let's watch.

児童が自分の課題にあわせて、視聴したいところを、自分で選んで視聴する。

答えを書き込む。

・Let's listen.

児童が自分の課題にあわせて、聞きたいところを、自分で選んで聞く。

・Let's chant.

個々で繰り返し言う。苦手なところだけ練習することもできる。

・Let's try.

ピクチャーカードを見ながら、自分のことを伝える。

Ⅶ 単元計画（全 6 時間）

時	目標(◆)と主な活動(○)	使用デジタル教科書
1	◆本単元のゴールを知り，学校行事の語彙を理解することができる。 ○挨拶，日付，天気，5つのポイントの確認 ○Small Talk 「学校生活の思い出」 ○Story. P.80 ○語彙提示 ○Let's play. ポインティングゲーム おはじきゲーム フェイントリピートゲーム	・指導者用・学習者用 ・指導者用・学習者用
2	◆思い出に残る行事を伝える言い方を知り，友達に伝えることができる。 ○挨拶，日付，天気，5つのポイントの確認 ○Small Talk 「好きな学校行事」 ○Let's watch. P.82 ○Let's listen. P.82 ○Let's chant. P.82 My best memory is our school trip. ○Let's talk. 「小学校生活の思い出」	・指導者用・学習者用 ・指導者用・学習者用 ・指導者用・学習者用
3	◆行事で行った場所やしたことなどを伝える言い方を知り，友達に伝えることができる。 ○挨拶，日付，天気，5つのポイントの確認 ○Small Talk 「思い出の行事」 ○Let's watch. P.84 ○Let's listen. P.84 ○Let's chant. P.82 My best memory is our school trip. ○Let's talk. 「思い出の行事でしたこと」	・指導者用・学習者用 ・指導者用・学習者用 ・指導者用・学習者用
4	◆発表するための資料を作ることができる。 ○挨拶，日付，天気，5つのポイントの確認 ○Small Talk 「思い出の行事でしたこと」 ○Let's chant. P.82 My best memory is our school trip. ○Let's listen and read. P.85 ○Let's write.	・指導者用・学習者用
5	◆小学校生活の思い出に残る行事を伝えあい，自分の発表を改善することができる。(本時) ○挨拶，日付，天気，5つのポイントの確認 ○Let's listen and read. P.85 ○Activity.	・指導者用・学習者用 ・指導者用・学習者用
6	◆小学校生活の思い出に残る行事を発表することができる。 ○挨拶，日付，天気，5つのポイントの確認 ○Let's chant. P.82 My best memory is our school trip. ○Activity.	・指導者用・学習者用

VIII 本時の学習 (5/6)

1 目標

- ・ 小学校生活の思い出に残る行事を伝えあい、自分の発表を改善することができる。

2 準備物 PC, 絵カード (5つのポイント), ワークシート (発表原稿)

3 学習過程

児童の活動	授業者の活動	デジタル教科書の活用
1 Greetings ・ 授業者に挨拶をする。 ・ 月日, 曜日, 5つのポイントを言う。 ・ 前時の振り返りカードの意見を聞く。 2 Today's Goal ・ 小学校生活の思い出を伝え合い改善しよう。 3 Activity ・ Let's listen and read. のニックのスピーチ内容を確認する。 ・ ニックのスピーチのよさを考え, 発表する。 「強弱がある。」 「すらすら言えている。」 「発音がいい。」 ・ ニックのスピーチのよさを捉えた上で, さらに相手に伝わるようにするためには, どうすればよいか考える。 「ジェスチャー」「もっと感情をこめる。」 「like や enjoy などの表現を使う。」 ・ 授業者の小学校生活の思い出を聞く。 ・ 自分のスピーチを見直したり練習したりする。 ・ ペアになり, 小学校生活の思い出を話す。一方は録画する。 ・ ペアで自分の発表を見て, 振り返る。 ・ 再度, ペアになり, 小学校生活の思い出を話す。一方は録画する。 ・ ペアで自分の発表を見て, 振り返る。 ・ 発表を記録した動画を, 授業者の PC に送る。 4 振り返りをする。 ・ 振り返りカードに書く。	・ 挨拶をする。 ・ 前時の質問や意見を紹介する。 ・ Today's Goal を板書する。 ・ どのようなスピーチ内容か思い出させた上で Let's listen and read. を聞かせる。 ・ ニックのスピーチを個々で聞かせる。 ・ ペアでニックのスピーチのよさを相談し, 発表する。 ・ 共に過ごした仲間の大切さを伝えるにはどうしたらよいか問う。 ・ 児童の意見を踏まえて授業者の小学校生活の思い出を話す。 ・ スピーチを見直させたり練習させたりする。 ・ 机間指導をする。 ・ 2回目の活動を行うよう指示する。 ・ 「What's your best memory?」と言わせ, 匿名で音声を流す。 ・ 聞いた後, リアクションさせる。 ・ 本時のねらいに照らして, 振り返らせる。	・ 授業前にログインしておく。 ・ 個々で何度も聞かせる。 ・ 画面の文字を指して言う。 ・ デジタル教科書を使って調べてもよい。

活用実践事例

令和5年度

四日市市立内部中学校
公開授業

第3学年 英語科学習指導案

日時 令和5年12月5日(火) 第5校時

学級 四日市市立内部中学校3年3組 34名

場所 3年3組教室

指導者 小林 雄太

1 単元名 Unit7 Tina's Speech (Here We Go! English Course3: 光村図書)

2 単元目標

- ・印象に残るスピーチをするために、自分の経験や思い出を書いたり話したりできる。

3 単元設定の理由

(1) 単元について

教科書本文では、Tina が日本を去るにあたりクラスの前でスピーチをしている場面が取り上げられている。中学校3年間で日本の仲間と過ごしてきた中で、自分自身の経験や思い出を伝えている様子は、自分たちの中学校生活での日常と重ねたり、Tina たちが過ごしてきた3年間の思い出したりと、生徒たち自身にとって、考えやすい内容となっている。具体的には、3年前に日本に引っ越すことを聞いて不安に襲われたこと、日本でカルチャーショックを受けたこと、友達や家族のおかげで乗り越えられたことなどを語っており、今までに仲間や家族に支えられてきた Tina の様子が何度も本文の内容に取り上げられていたことを思い出すことができる。今回のスピーチの中で、Tina は当時のことについて、具体的に語っている。印象に残るスピーチをするために、ただ事実や出来事を伝えるだけで終わってしまうのではなく、具体的なエピソードがあることにより、スピーチに深みが増すことができると気付かせたい。

また、ここで指導する言語材料は疑問詞+to+動詞の原形、If…の仮定法の構文である。疑問詞や if といった語は既出のため、比較的理解はしやすいと考えられるが、教科書の文章の中で、どのようにこれらの表現が使用されているかについて知ること、より理解を深めさせたい。

(2) 生徒について

※掲載を省略しています。

(3) 指導について

本単元では、Tina がスピーチの中で一番伝えなかった「友達や家族に支えられたこと」ことを聞いて、話し手の意向を正確に理解することを通して、生徒自身の経験や思い出などの具体的なエピソードが用いられたスピーチができるようになることを目標としている。そのためには、まずスピーチの中でいちばん印象に残った部分やその理由についてじっくり考えた後、原稿の準備にとりかかる。生徒がいちばん伝えたいことを明確にした分かりやすいスピーチや、具体的なエピソードを用いたスピーチといったように、個々がそれぞれのスピーチの中で何を大切にしているのかが伝わるようスピーチにしてほしいと考えている。また今単元で登場した疑問詞+to+動詞の原形、If…の

仮定法の構文を習得することで、表現方法の幅を広げることができる。生徒自身の経験や思い出について、より深く伝えることができるように、教科書の文章を活用した指導をしていきたい。生徒自身が「伝えたいと思うこと」をスピーチするために、まとまった英文を書く必要がある。初めは英作文に抵抗を感じる者がいるかもしれないが、より良いスピーチを目指して、書いた原稿を何度も読み返したり、仲間や教師からの考えを取り入れたり、粘り強く改善し続けるよう指導することで、ライティング力の向上に努めさせたい。

[生徒の発話例] (下線部は全員が目指す発話)

Do you have a treasure? For me it's my mascot. There are two reasons. First, this is the thing which a friend bought for me on my birthday. I was surprised and didn't know what to say. Second, the mascot reminds me of happy times at our school trip to Tokyo. My friend gave me it in Tokyo. If I could speak to my friend of seven months ago, I would say "thank you and I would always cherish this present."

(4) 学習者用デジタル教科書の活用について

学習者用デジタル教科書を用いて、個別のペースに応じた学習を大切に進めている。英語という教科は得意、不得意が表れやすいため、一斉指導のように全ての生徒に対して、同じ指導を行うには効果が薄い場合などに、学習者用デジタル教科書を効果的に活用することを大切にしている。例えば、単語練習では、自分のペースで単語の発音確認を行うことができ、その単語を習得できるまで、繰り返し音声を再生したり、それを聞いて発音したりすることができる。本文の音読練習においても、英文を自分に合ったスピードで再生することができ、何度も繰り返し聞くことができる。その際には、できる限り登場人物になりきって抑揚をつけたり、発音や音のつながり、消滅を意識したりと、目標を明確にしながら、繰り返し練習を行うことに重きを置いた指導を行っている。

また、協働的な学習では、気づいた表現にハイライトを入れたり、書き込みができたり、自分の考えを手軽に残すことができるので、グループやペアでの話し合いに活用できる。

生徒の感想より

- ・紙の教科書では、一単語ずつ読んでしまうけど、デジタル教科書を使うと、英語っぽく話すことができるようになりました。
- ・デジタル教科書を使えば、自分が分からないところを何回も再生できるので、より理解が深まりました。音のつながりや、逆に少し間があるところ、強く発音するところなどを意識して聞きとることができました。
- ・たくさん英語を聞いて、少しでも発音を聞こえた通りの英語に近づけて、話すことを工夫しました。もう少し、はっきり話せるともっと良かったです。
- ・デジタル教科書を使って、自分の苦手なところを分かりやすい速さで、必要なところのみを繰り返し聞けたので、じっくり弱点の補強ができました。お手本を聞いてから、同時に読むようにして練習を進めました。

4 単元の評価規準と評価方法

	評価規準
知識・技能	疑問詞+to+動詞の原形や If…の仮定法を使って、やり方を知りたいことや「もし～だったら」どうするかを書いたり話したりできる。
思考・判断・表現	友達や家族に感謝し、印象に残るスピーチをするために、自分の経験や思い出を用いて、書いたり話したりできる。
主体的に学習に取り組む態度	友達や家族に感謝し、印象に残るスピーチをするために、自分の経験や思い出を用いて、書いたり話したりしようとしている。

5 単元計画（全8時間）

※評価は記録に残す評価のみ記載

時	主な活動内容(目標◆・活動○)	評価		
		知 技	思 判 表	態 度
1	◆ストーリーの話題を予測し、おおまかな内容を理解することができる。 ○Small Talk ○絵を見たり、自分がスピーチするとしたら、何を話すかを考えたりして、ストーリーの話題を予測する。 ○ストーリーを通して聞いて、おおまかな内容をつかむ。			
2	◆Part1 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解できる。 ○Small Talk ○p90 の本文を読んで、内容を理解する。 ○疑問詞+to+動詞の原形の意味と使い方の理解をする。 ○p90 の本文を音読する。			
3	◆「何を～するか」、「～のしかた」などを使った会話を聞いたり、何を～するか、「～のしかた」などを使って話したり書いたりできる。 ○Small Talk ○登場人物の会話を聞いて、その人がやり方を知っていることと、知らないことを聞き取る。 ○ペアになり、疑問詞+to+動詞の原形を使って、あることのやり方を知っているかどうかをたずね合う。 ○疑問詞+to+動詞の原形を使って、自分がやり方を知りたいものを書く。			
4	◆Part2 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解できる。 ○Small Talk ○p92 の本文を読んで、内容を理解する。 ○If…仮定法の構文の意味と使い方の理解をする。			

	○p92 の本文を音読する。			
5	◆登場人物のスピーチを聞いて、「もし～だったらどうするか」と書いて、話したりできる。【本時】			
6	◆登場人物のスピーチを聞いて、話し手がいちばん伝えたいことを聞き取ることができる。 ○3人の登場人物のスピーチを聞いて、それぞれが話題にしたことを聞き取る。 ○スピーチのスク립トを読んで、それぞれのスピーチの構成や表現を工夫している点を理解する。			
7	◆友達や家族に感謝の気持ちが伝わるようにスピーチを考えることができる。 ○スピーチのテーマを決め、話す内容をチャートに書き出して整理する。 ○スピーチの構成や表現を考えて、原稿を作る。	書	書	書
8	◆グループになり、友達や家族に感謝の気持ちが伝わるようにスピーチをすることができる。 ○グループになり、順番に自分の気持ちを伝えるスピーチをする。 ○スピーチを聞いた感想を伝え合い、自分のスピーチへの自己評価を付け、コメントを書く。 ○活動をふり返り、自己評価をする。	発	発	発

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・登場人物のスピーチを聞いて、「もし～だったらどうするか」と書いたり、話したりできる。

(2) 本時の指導計画（50分）

時間	学習活動	指導上の留意点
2分	1. 英語であいさつをする。 T: Hello, everyone. S: Hello. T: How are you today? S: I'm good / sleepy. / tired.	・教師が英語で元気よくあいさつすることで、英語の授業に向かう雰囲気を作る。
8分	2. Small Talk (ウォームアップ) ・お題: If you had a Doraemon pocket, what would you do? ・ペアで行う。 ・中間指導を受けて再度ペアで行う。(2回目)	・What kind of Doraemon tools do you know? ・生徒にたずねながら、自由に出させる。いくつかの道具を提示する。 ・英語が苦手な生徒も楽しめる活動である。そのため簡単な英語で伝われば良いので、あまり指摘しすぎない。
10分	3. Unit7-2 本文の内容の復習 ・Tina のスピーチを聞き、Tina の気持ちが伝わった表現に線を引く。 ・デジタル教科書を使って、一人が Tina の気持ちになって本文を音読し、もう一人がその音読に対してコメントする。 ・線を引いた部分について話し合う。	・宿題でデジタル教科書を使って、本文を音読しておくように伝えておく。 ・相手の音読を聞いて、相手が線を引いている部分を予想し、コメントさせたい。
5分	4. 仮定法の文に着目する。 ・Tina は昔の自分に何をしたいと言っているか、考える。 ・If I could speak to that worried girl of three years ago, I would say, "There's no need to worry. You're going to have a wonderful adventure in Japan!"	授業動画 ・「もし…だったら～するだろうに。」という現実とは異なる話をしていることを押さえる。 ・理解が不十分である場合は、「もし…だったら～するだろうに。」という別の例文を用いて練習させたい。

2 分	5. Today's Goal を確認する。	
	「もし～だったらどうするか」 Kota になって Tina に伝えることができる。	
5 分	6. 課題の説明を聞く。 ・これまでの Kota と Tina の関係性を振り返りながら、場面や状況を把握する。 ・3つの賞について理解する。	・「Kota らしいで賞」、「ロマンチック賞」、「ベストユニーク賞」の3つの賞があることを伝え、それぞれのグループが目的を持って取り組めるように指導する。 仮定法を使うなどしながら、3つの賞の内容を簡潔に伝える。
15 分	7. 課題に取り組む。 ・グループごとに「もし Kota なら Tina に何を伝えたいか」考える。 ・Kota の気持ちになって、Tina に伝えたいことを「リスト」に挙げる。 ・英文を書く。 ・If I were Kota, I would say... 8. 中間指導を受ける。 ・書けなかった表現等について全体で確認する。 9. 再度課題に取り組む	・机間指導を行いながら、困っているグループの支援を行う。 ・英作文に困っている生徒のヒントになるような指導を行う。 ・書いたことは、次回の授業でみんなと交流することを生徒に予告する。
3 分	10. 振り返り 本時のゴールに対しての取組や、仮定法 if を用いて、英文で表現するときに気付いたことなどを振り返る。 11. あいさつ	